

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】平成 20 年 3 月 13 日 (2008.3.13)

【公表番号】特表 2006-516375 (P2006-516375A)

【公表日】平成 18 年 6 月 29 日 (2006.6.29)

【年通号数】公開・登録公報 2006-025

【出願番号】特願 2006-500826 (P2006-500826)

【国際特許分類】

H 0 4 N 7/26 (2006.01)

【F I】

H 0 4 N 7/13 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 20 年 1 月 22 日 (2008.1.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ビデオエンコーダでモード選択を実行する方法であって、  
一連の符号化モードから複数の符号化モードを用いて符号化するステップと、  
前記複数の符号化モードから各符号化モードごとに歪値を計算するステップと、  
前記複数の符号化モードから各符号化モードごとにビット・レート値を計算するステップと、

前記歪値、前記ビット・レート値、およびラグランジュ乗数を用いて前記複数の符号化モードから、各符号化モードごとにラグランジアン値を計算するステップと、

前記ラグランジアン値をクラスタ化するステップと、

モード 0 符号化方法が特定のクラスタ内にある場合に前記モード 0 符号化方法を選択することで前記ラグランジアン値を選択するステップとから構成される方法。

【請求項 2】

前記歪値を計算するステップはアウトライアの影響を低減するための関数を使用するステップを有することを特徴とする請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記歪値を計算するステップは、H u b e r 関数を使用するステップを有することを特徴とする請求項 1 に記載の方法。

【請求項 4】

前記ビット・レート値を計算するステップは、動きベクトル一式および変換係数一式を符号化するのに必要な総ビット数を計算するステップを有することを特徴する請求項 1 に記載の方法。

【請求項 5】

前記ラグランジュ乗数は、量子化値の関数として緩やかに変化するラグランジュ乗数を有することを特徴とする請求項 1 に記載の方法。

【請求項 6】

前記特定のクラスタは最小ラグランジアン値を生成する符号化モードを有することを特徴とする請求項 1 に記載の方法。

【請求項 7】

前記方法は、モード 0 符号化方法が特定のクラスタ内にない場合に最小ラグランジアン

値を生成する符号化モードを選択するステップをさらに有することを特徴とする請求項 1 に記載の方法。

【請求項 8】

前記モード 0 は直接モードであることを特徴とする請求項 1 に記載の方法。

【請求項 9】

前記モード 0 はスキップ・モードであることを特徴とする請求項 1 に記載の方法。

【請求項 10】

少なくとも 1 つのプロセッサで実行可能なモード選択を実行するためのコンピュータ・プログラムを格納するコンピュータ可読媒体であって、前記コンピュータ・プログラムは、

一連の符号化モードから複数の符号化モードを用いて符号化を行う命令と、  
前記複数の符号化モードから各符号化モードごとに歪値を計算する命令と、  
前記複数の符号化モードから各符号化モードごとにビット・レート値を計算する命令と

、  
前記歪値、前記ビット・レート値およびラグランジュ乗数を用いて、前記複数の符号化モードから各符号化モードごとにラグランジュ値を計算する命令と、

前記ラグランジュ値をクラスタ化する命令と、

モード 0 符号化方法が特定のクラスタ内にある場合に、前記モード 0 符号化方法を選択する命令とを有することを特徴とするコンピュータ可読媒体。

【請求項 11】

前記歪値を計算する命令は、アウトライアの影響を低減するための関数を使用する一連の命令を有することを特徴とする請求項 10 に記載のコンピュータ可読媒体。

【請求項 12】

前記歪値を計算する命令は、Huber 関数を使用する一連の命令を有することを特徴とする請求項 10 に記載のコンピュータ可読媒体。

【請求項 13】

前記ビット・レート値を計算する命令は、動きベクトル式および変換係数一式を符号化するのに必要な総ビット数を計算する命令を有することを特徴とする請求項 10 に記載のコンピュータ可読媒体。

【請求項 14】

前記ラグランジュ乗数は、量子化値の関数として、緩やかに変化するラグランジュ乗数を有することを特徴とする請求項 10 に記載のコンピュータ可読媒体。

【請求項 15】

前記特定のクラスタは最小ラグランジュ値を生成する符号化モードを有することを特徴とする請求項 10 に記載のコンピュータ可読媒体。

【請求項 16】

前記コンピュータ・プログラムは、前記モード 0 符号化方法が、特定のクラスタ内にない場合に、最小ラグランジュ値を生成する符号化モードを選択する命令をさらに有することを特徴とする請求項 10 に記載のコンピュータ可読媒体。

【請求項 17】

前記モード 0 は直接モードであることを特徴とする請求項 10 に記載のコンピュータ可読媒体。

【請求項 18】

前記モード 0 はスキップ・モードであることを特徴とする請求項 10 に記載のコンピュータ可読媒体。